

地学オリンピック支援委員会

第14回議事録

2019年4月22日
委員長 田中 義洋

期 日：2019年3月30日（土）14：00 - 16：00

場 所：日本地質学会事務局会議室

出席者：浅野、小泉、川勝、川村、芝川、田中、久田、平田、渡来（出席者9名で委員会は成立）

議 題

1. 平成30年度の活動報告
2. 第11回日本地学オリンピック予選問題の評価
3. 2019小学生のための地学オリンピックの開催準備
4. 平成31年度の体制および活動方針の確認

詳 細

1. 平成30年度の活動報告

(1) 委員会を1度開催（第13回：2018年3月24日）

(2) 第10回日本地学オリンピック予選の問題検討

委員会およびメーリングリストでの検討を経て、地学オリンピック日本委員会に「第10回日本地学オリンピック予選 試験問題に関する講評」を提出した。

(3) 第12回国際地学オリンピックタイ大会日本代表選手への支援（4月～8月）

地学オリンピック日本委員会の依頼を受け、通信研修および日本代表合宿研修に協力した。

(4) 小学生のための地学オリンピック「チャレンジ地球」の開催

2018年9月17日にキャンパスイノベーションセンター東京でクイズ30を実施し、3名が受験した。10月8日にはその3名を対象とし、ジオパーク探検を実施した。また、久田委員から、2018年度は試行期間という位置づけで実施し、今後2年間を実施期間とする報告があった。

(5) 広報活動

地質学会・北海道大会の「小さな Earth Scientist のつどい」ポスター発表会場に掲載するポスターを準備したが、地震の影響でESのつどいが中止となった。

2. 第11回日本地学オリンピック予選問題の評価

芝川委員が作成した問題と教科書との対比に関する分析資料をもとに意見交換を行った。問題数は昨年よりわずかに増えたが、高等学校地学基礎の教科書の記述を基本にした出題内容となっている。「選択肢の作り方がより良くなっている」、「間違っているものを選ばせる問題が年々減ってきており、受験者にとって良い意味で解きやすい形式になってきている」との意見や「最も適切でないものを選ぶという指示は表現を再考する必要がある」、「今後の新テストを意識し、思考力を問う問題や分野を横断する総合問題等を増やしたほうが良い」などの指摘があった。

分析資料と今回出された意見や指摘をもとに、メーリングリストを通じて検討を続け、4月下旬を区切りとして評価をまとめ、その内容を地学オリンピック日本委員会に書面で提出することとした。

3. 2019 小学生のための地学オリンピックの開催準備

1 回目の参加者アンケート結果をもとに、実施主体や募集方法などに関して議論を行った。今回の参加者は都市部の方だったことや予算の関係から、参加者を増やすには対象地域を絞る方が良いのではないかという意見が出されたが、都市と地方との格差を拡げることにつながるのではないかと懸念も示された。話し合いの結果、小学生のための地学オリンピックでは、フィールドワークを取り入れるという前提のもとで、地域の事情に応じてクイズ 30 を弾力的に運用するという方針を決めた。地質学会の後押しを受けながら、フィールドワークについては、ジオパークとの連携を図るなどして、人員や予算の確保

4. 平成 31 年（令和元年）度の体制および活動方針の確認

(1) 委員会の活動方針

今後も、地学オリンピック日本委員会からの要請に応じて支援を続けていくこと、および地質学会内での広報活動を継続していく方針を定めた。さらに、1 の(6)でも指摘があったように、地学オリンピックの年間予定に沿った日程で活動を検討していくこととした。

(2) 次回委員会の日程

平成 31 年（令和元年）度の委員会は、開催を 1 回以上とし、次回はセンター試験後から年度末の期間の間で、多数の委員の都合が合う日で開催日を調整することを確認した。

以上